

「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」重点領域

【基本方針】

阪急阪神沿線を中心に、私たち一人ひとりが関わる地域において、
「未来にわたり住みたいまち」をつくることを目指す。

【重点領域】

未来へつなぐ『地域環境づくり』と『次世代の育成』

【重点領域の詳細】

(A)地域環境づくり

地域コミュニティが、安全・安心かつ文化的で、環境に配慮しながら発展する、持続可能なまちづくりに貢献する活動。

①安心・快適で、環境に配慮した地域コミュニティをつくる活動

- ◆公共交通機関、自転車等を活かしたコンパクトシティづくり(※)、◆地域の安全を守る活動、◆花・緑を豊かにする活動、◆地域の美化・清掃活動、◆世代間交流、◆多様な人々との地域内交流、など

※コンパクトシティ＝市街地のスケールを小さく保ち、歩いてゆける範囲を生活圏と捉え、コミュニティの再生や住みやすいまちを目指そうとすること。

②自然環境・生物多様性の保全につながる活動

- ◆里山保全、◆ビオトープづくり(※)、◆植樹、◆絶滅危惧種保護、など

※ビオトープ＝地域固有の動植物の自然生態系バランスが保たれた空間のこと。都市部など自然が少ない場所ではビオトープを造成・復元する動きが高まっている。

③持続可能なライフスタイルの普及活動

- ◆スローライフ、◆エコツーリズム、◆地産地消、◆モビリティマネジメント(※)、など

※モビリティマネジメント＝過度に自動車を利用する「クルマ中心」のライフスタイルから、電車やバスなどの公共交通や、自転車などの積極的な利用を促す環境啓発活動。

④地域の歴史・文化的資源の保全・活用・発展につながる活動

- ◆歴史的建造物の保全・活用、◆地域の文化芸能の保全・活用、など

⑤地球温暖化防止につながる活動

- ◆再生可能エネルギー(※)の普及、◆カーボンオフセット(※)、など

※再生可能エネルギー＝太陽光・風力・水力・バイオマスなどの資源を枯渇させずに利用できるエネルギー。

※カーボンオフセット＝排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動。

⑥廃棄物等を低減した循環型社会の実現につながる活動

- ◆3Rの普及(※)、◆環境配慮商品の普及、など

※3R＝リデュース(削減)・リユース(再利用)・リサイクル(再生)の優先順位を考慮した廃棄物削減活動

(B)次世代の育成

未来の地域社会を担う人材であるこども達が、夢を持って健やかに成長する機会を創出する活動。

①こども達が自然や環境^{エコロジー}について体験・学習する活動

- ◆自然体験、◆交通機関・店舗等を活用した環境教育(※)、など

※環境教育＝身の回りの環境や環境問題に関心・知識をもち、持続可能な社会の構築を目指して、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成する。

②こども達の豊かな心を育む文化・芸術活動

- ◆音楽・演劇に親しむ活動、◆アートに親しむ活動、◆伝統文化に親しむ活動、など

③こども達の健全な成長を支援するスポーツ活動

- ◆スポーツ教室、◆ハイキング、など

④こども達が地域や社会についての理解を深める活動

- ◆事業施設での職業体験受入れ、◆工場等の社会見学、◆出張授業、など

⑤こども達が多様性を認めあい、思いやりの気持ちを育む活動

- ◆国際理解の活動、◆障がい者・高齢者理解の活動、◆生命の大切さを学ぶ活動、など

⑥こども達へ祖父母・親世代からの知恵を伝承する活動

- ◆ものを大切に暮らす知恵の伝承、◆食育(※)、◆遊びの伝承、など

※食育＝食料を供給する農山漁村と都市の交流、豊かな食文化の継承・発展、環境と調和のとれた食料の生産・消費の推進など、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる。

⑦障がい児、交通・災害遺児、一人親家庭、社会福祉施設等の児童を支援する活動(家庭への育児支援を含む)

以上